

“MY TOWN” うおっちんで

歩キ目デス & 足ラテス

Vol.38

J・H・モーガンと
しののめ がく えん
東雲学園

タウンツリズム講座主宰・
ヘリテージマネージャー
岡崎直司

松山城の東麓にあるロープウェイ街が、「坂の上の雲」構想のまちづくりによって整備され話題となっているが、その一画に注目すべき建物がある。ちよいと目には、どう見ても松山城の城門か何かにしか見えないが、これはれっきとした松山東雲学園（中学・高等学校）の正門である。英語名は、言い得て妙のゲートハウス。



東雲学園正門

つまりこの建物は、見かけはともかく、江戸期の建物ではなく近代になって、しかも昭和3（1928）年に建てられたもの。よく見れば、石垣の積み方も少しヘンだし、

窓の形も松山城の櫓（やぐら）と較べると違いが分かる。それもそのはず、この門の設計者を聞くともつと驚く。その人物はアメリカ人、J・H・モーガン。と言っても、近代建築に詳しい人でもなければ、知らない人の方が多いに違いない。

モーガンは、46歳の時、大正9（1920）年に日本フラー建築会社の設計技師として来日。旧丸ビルや日本郵船ビルなどの建設に関わり、2年後には独立、東雲学園（当時は松山女学校）の仕事は、横浜市内にあった露亜銀行に事務所を開設していた頃に相当。全国に30以上の建築作品がある中で、半分は横浜にあるという。後に丹下健三などにも影響を与えたA・レーモンドなどと同じ時代の在留外国人建築家として活躍した。

近年、神奈川県藤沢市にあるそのモーガンの自邸が保存されることとなり、現在は（財）日本ナショナルトラストの所有



モーガンの校門設計図



戦前期の様子



正門内側

ある。それにしても、モーガンの日本理解がいきなり城門になるとは。少し学園の歴史を追ってみよう。その創立は古く、明治19（1886）年9月、クリスチャン二宮邦次郎によって四国初の女子教育、松山女学校としてスタートしている。二宮は備中高梁の出身、同志社で新島謙の薫陶を受け、牧師の道を進むことで今治教会を経由し、松山へ。初代二宮校長からコルネリア・ジャクソンに引き継がれ、大正元（1912）年に神戸からオリブ・S・ホイテ女史が赴任し、同9年に第3代の校長に就任する。そして、懸案であった新校舎建設に際し、その設計がJ・H・モーガンの手に委ねられたのである。

東雲学園百年史によれば、その時の建築計画コンセプトは、「全校舎建築を松山城という環境にふさわしい城郭型の建築として行う」というホイテ校長の理念が行き届いたらしい。その第1号として、昭和3年5月10日に松山の棟梁山本守常により完成したのが、前述の正門である。全国のもーガンによる建築作品の中でも、非常に特異なこのデザインは、そうした背景による設計であったのだ。事実、この後に続々と完成を見る家政館、体操館、寄宿舎、教師館などの建築群は、同様なスタイルであったことが古写真からも判明する。

まさに、松山城の東郭跡に立地する上での景観配慮は、現代的な景観法の時代に照らしても、先進性あふれる教育環境の出現だった。外国人であり、教育理念の人であったからこそその発想

に、様々教えられる思いがする。しかし、好事魔多し、昭和20年7月26日の松山空襲でその殆どは灰燼に帰し、残るのはこの正門のみである。奇跡的に残されているモーガン自筆の設計図と共に、その貴重さは計り知れない。

もう一つだけ、得がたい建物を紹介しておこう。現在「みつばハウス」の名で呼ばれるかつての宣教師館である。正門を入るとつづら折れの坂道となるその突き当たり、手摺りのある急な階段の上に、静かに建っている。残念ながら今はあまり使われていないが、これがかつて戦災消失した後に再建された宣教師館だった建物。モーガンの設計による元の館の跡地にそのまま同じ平面計画で、今度はかのボーズによって設計され、昭和24（1949）年8月に完成している。手摺りと階段は初期のまま。5代西村清雄校長の後を受け、戦後の再建に尽力した6代校長C・S・ジレット夫妻がこの建物に住んでいた。その一室でジレットがタイプを打ち、在職12年の新珠の原稿を残していたことが近年判明。「タイプライターは語る」という一冊がOB有志、学校関係者によって上梓され、昨今の教育問題というご時勢に、何やら光を放っているようでもある。

校門の門柱には、歴史あるミッシェンスクールらしく、入る時に「高遠なる理想」「敬虔なる信仰」「真摯な努力」、出る時に「清純なる愛情」「私心なき奉仕」と刻まれている。この得がたいブランド性は、豊かな伝統に育まれた魅力ある個性として、これからもっと光輝くことを期待したい。

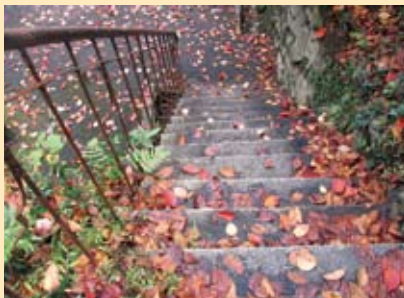
*是正文

前回VOL.37の記事中、24ページ下段1行目「江戸期に庄屋株の売買があり、」は「江戸期に伊方から移ってきた辻家となる。」に修正しお詫言ひ申し上げます。

■ブログ「岡崎直司の岡目八目」 <http://blog.goo.ne.jp/eye345>



みつばハウス・樋掃除の一コマ



宣教師館当時のままの階段



藤沢市のモーガン自邸